

「再犯防止×地方創生」トピックス
ブロック別再犯防止シンポジウムの開催について

ブロック別再犯防止シンポジウムとは、8ブロック（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国及び九州）ごとに、広く一般の方を対象に、再犯防止施策についての関心と理解を深めていただき、その協力を得ることができるよう開催されているものです。

毎年、高等検察庁、地方更生保護委員会、矯正管区（法務省矯正局の事務を分掌する地方支分部局）が順に主催しているところ、今年度は矯正管区が中心になって、「民間協力者による社会課題解決としての再犯防止の取組」を開催テーマとして、ブロックごとに犯罪をした者等の社会復帰支

援等に携わる民間協力者の取組の紹介や、より一層の連携を図るための方策を検討することを目的に開催されます。

今年度の各ブロックの開催日、会場は下記の表のとおりです。

令和5年に第2次再犯防止推進計画が策定され、再犯防止については、これまで以上に国・地方公共団体・民間協力者等による連携体制の構築が必要です。

本シンポジウムは、地域における再犯防止に向けた取組について参考になる有意義な機会となりますので、多くの方に御参加いただきたいと考えています。

	開催日	会場（開催都市）
北海道	R8.1.24（土）	北海道大学学術交流会館（札幌市）
東北	R8.2.6（金）	せんだいメディアテーク（仙台市）
関東	R8.2.14（土）	早稲田大学国際会議場井深大記念ホール（新宿区）
中部	R7.12.21（日）	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス（名古屋市）
近畿	R8.2.5（木）	立命館大学朱雀キャンパス（京都市）
中国	R8.2.4（水）	広島県情報プラザ（広島市）
四国	R7.12.16（火）	レクザムホール（高松市）
九州	R8.2.17（火）	西南学院大学（福岡市）



法務省ホームページ「ブロック別再犯防止シンポジウム」
※参加申込の方法等実施の詳細は順次左記HPにアップされます。

（事務局から）

ブロック別再犯防止シンポジウムについては、再犯防止推進計画策定後の平成30年度から開催され、今回で5回目の開催（新型コロナの影響で途中開催されなかった時期もあります。）となり、各矯正管区において地域資源を生かした企画を計画しているようです。

また、令和8年1月20日（火）～21日（水）の日程で、山口県山口市及び美祢市において開催を予定している地方創生研究会についても、多くの会員の皆様の御参加をお待ちしております。



法務省ホームページ
「そうせい×きょうせい」

Revitalization
そうせい
×
きょうせい
Correction

Vol.11
2025 Autumn

- 広島県東広島市の紹介 ～矯正施設との連携～
- 広島少年院・貴船原少女苑の地域と連携した取組 ～立ち直りを支える地域の力～
- 「再犯防止×地方創生」トピックス
ブロック別再犯防止シンポジウムの開催について



広島県東広島市の紹介 ～矯正施設との連携「ひろきふサポーター～なんでも鯉～」～

広島県のほぼ中央に位置する東広島市は、古くから、穀倉地帯が広がる西国街道の要衝として栄えてきました。日本三大銘醸地のひとつ「西条」には、徒歩圏内に7つの酒蔵が軒を連ね、酒蔵巡りを楽しみながら、地元自慢の日本酒を心ゆくまで味わえます。秋に開かれる「酒まつり」では全国の地酒が楽しめる「酒ひろば」など多彩なイベントが催され、県内外から多くの人で賑わいます。

また、学術都市としての顔も持ち、広島大学をはじめ多彩な学術拠点が集積しています。学生たちの若いエネルギーは街を活気づけ、地域イベントや産学連携プロジェクトが盛んに行われています。

令和6年4月20日には市制施行50周年を迎え、「未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市～住みたい、働きたい、学びたいまち、東広島～」を将来都市像に、市民一人ひとりが幸福感(Well-being)を感じることでできる都市を目指しています。

さて、本市における刑法犯検挙者に占める再犯者の割合は50%前後を推移しており、新たな被害者を生まない安全で安心な社会を実現するため、令和4年3月に「東広島市再犯防止推進計画」を策定しました。令和7年3月には「東広島市地域共生社会推進計画(第4次東広島市地域福祉計画)」に包含する形で計画を策定し、地域共生社会の推進と一体的に施策を進めることとしています。

本市には、広島少年院と貴船原少女苑の二つの矯正施設が所在しています。両施設と東広島市社会福祉協議会等が連携した特色ある取り組みが「ひろきふサポーター～なんでも鯉～」です。

「ひろきふサポーター～なんでも鯉～」は、広島少年院と貴船原少女苑の在院生と職員により結成されたボランティア団体で、令和3年2月に東広島市社協にボランティア団体登録されました。男女の在院生が合同で活動することは全国で初めてのことで、「役立ちたい!」をテーマに、少年少女たちの自己肯定感の醸成のほか、ボランティア活動を通じた再犯防止、矯正教育の周知啓発を目的に活動しています。

在院生は、地域の一員として、福祉施設での夏祭りに準備の段階から参加したり、災害ボランティア活動にも積極的に取り組み、被災者支援活動も行いました。活動を通して、地域のつながりがいかに大切かを学ぶ機会となっています。

本市再犯防止推進計画にも、【関係機関と連携して取り組むこと】として、「ひろきふサポーター～なんでも鯉～」の活動が円滑に行えるよう、活動紹介を含めた市内矯正施設の理解促進のための啓発活動に協力していくと明記しています。

毎年7月には、再犯防止啓発月間事業として、『再犯防止啓発パネル展』と題して、再犯防止推進計画の内容紹介パネル等を展示しています。こうした展示やホームページで「ひろきふサポーター～なんでも鯉～」の活動紹介も行っています。

今後も、安全で安心な社会を実現するため、関係機関・団体と連携し、犯罪や非行をした人を含め、様々な課題や生きづらさを抱える人の生活を包括的な支援体制により支えてまいります。



西条酒蔵通り



酒まつりの様子



市役所でのパネル展



福祉施設の夏祭りの準備をする在院生

広島少年院・貴船原少女苑の地域と連携した取組 ～立ち直りを支える地域の力～

○広島少年院

当院は、昭和16年2月に広島市に設置され、昭和20年に現在地である東広島市八本松町原に移転しました。縁あって原村から広島県経由で光路山の土地を取得し、昭和17年7月から整地作業を始め、昭和26年に工事が完了しました。

当院と地域とのつながりの歴史は古く、平成5年に発行された八本松町内にある小学校の創立記念誌によると、同校の校舎建替えに当たって処分されることになった大木の活用のため、当院が依頼を受けて校歌額を製作したとのことで、この額は現在も同小学校の体育館に掲げられています。

令和3年には、当院と貴船原少女苑の在院生と職員でボランティア団体「ひろきふサポーター～なんでも鯉～」を結成しました。その活動内容としては、災害ボランティアや近隣の小学校での刈草の回収作業、下駄箱のペンキ塗りなどで、現在も様々な御依頼をいただいで活動しています。その他近年では、夏休み期間中にプールで遊んでいる児童の見守りを行うボランティア活動をしており、少年たちにとってもよい経験をさせていただいています。

また、職業指導の一環として製品企画科(アグリコース)で育てた野菜を、東広島市が農福連携事業として毎月1回程度、商業施設で実施している「ノウフクマルシェ」で販売させていただいています。物価高騰が続いていることもあってか、売れ行きは非常に好調です。

今後も、地域の一員として課題解決に参加し、地域の方に応援していただけるよう、関係機関・団体と連携した教育活動を展開していきたいと考えています。



ボランティア活動への御礼の手紙



ノウフクマルシェブース(広島少年院)

○貴船原少女苑

当苑は、昭和24年に広島市佐伯区で開苑し、平成6年に現在地の東広島市に移転した女子少年院です。広島少年院と隣接しており、平成28年からは広島少年院の分院として運営されています。

当苑での矯正教育の実施に当たっては、地域の皆様から多大な御協力をいただいており、その一部について紹介いたします。「立ち直りを支える地域の力」として、地域における更生保護等に尽力されている東広島地区保護司会及び東広島地区更生保護女性会の方々には、毎年2回、苑内の除草作業を通して、教育・生活環境の整備に御協力いただいています。同女性会からは少女たちに対し、ドライフラワーの制作指導もしていただき、苑内は、随所にわたりドライフラワーが飾られ、華やかな雰囲気となっています。

地方自治体との関わりとしては、地域の行事への御招待を受け、少女たちが製作した職業指導製品を販売しています。令和6年度からは、東広島市の「ノウフクマルシェ」に参加させていただき、苑内で収穫した野菜や手芸製品を販売することになりました。こうした取組は、施設と地域のつながりを深めるだけでなく、少女たち自身にとっても、購入者や利用者を思い描きながら創造力を働かせて職業指導に取り組むきっかけになるなど、矯正教育に対するモチベーションの向上につながっていると感じます。

再非行を防止し、社会復帰を目指す上で、地域との健全な関わりは重要な意義を持ちます。今後も、地域や地方自治体との有機的な連携をより充実させていきたいと思っています。



少女たちが作成したドライフラワー



ノウフクマルシェブース(貴船原少女苑)

注～マルシェブースでの販売員は職員です。